

能美市地域福祉活動計画

よろっさ やろっさ つなごっさ!

住民参画でパークアップ!

私たちの まちづくり大作戦

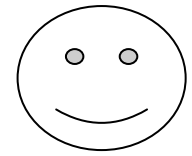
目 次（ 案 ）

第1章 能美市地域福祉活動計画の策定にあたって	・ ・ ・ ・ ・ 3
◆ 「(マスコット)」が案内する大切なポイント	・ ・ ・ ・ ・ 4～5
・ 能美市地域福祉活動計画	
・ 能美市地域福祉活動計画の期間は5年間	
・ 参加と参画のちがい	
・ 住民が計画づくりに参画する意義	
・ 福祉は私たちの普段の暮らしに関わっています	
・ “ノーマライゼーション”は福祉の基本的な考え方	
・ “自助・共助・公助”は福祉の大切なポイント	
・ 地域福祉ってなあに？	
・ 地域福祉で捉える“地域”とは？	
第2章 能美市地域福祉活動計画策定の体制と経過	・ ・ ・ ・ ・ 6
◆ 計画策定の体制	・ ・ ・ ・ ・ 7
◆ 計画策定までの経過	・ ・ ・ ・ ・ 8
◆ 意見収集の方法	・ ・ ・ ・ ・ 9
第3章 私たちの思いから生まれた能美市地域福祉活動計画	・ ・ ・ ・ ・ 10
◆ 計画の基本的な考え方	・ ・ ・ ・ ・ 11
・ 基本理念	
・ 基本目標	
・ 方針	
◆ 能美市地域福祉活動計画体系図	・ ・ ・ ・ ・ 12
◆ 実行に向けて	・ ・ ・ ・ ・ 13
第4章 各アクションプラン委員会について	・ ・ ・ ・ ・ 14
◆ 地域福祉人づくり委員会	・ ・ ・ ・ ・ 15～18
◆ 地域福祉ネットワークづくり委員会	・ ・ ・ ・ ・ 19～22
◆ 地域福祉支えあいのしくみづくり委員会	・ ・ ・ ・ ・ 23～26
◆ 私たちのボランティアセンターづくり委員会	・ ・ ・ ・ ・ 27～30
第5章 住民意識と活動を高めるために	・ ・ ・ ・ ・ 31
◆ 能美市地域福祉活動計画を推進する体制	・ ・ ・ ・ ・ 32
◆ 能美市地域福祉活動計画を評価する体制	・ ・ ・ ・ ・ 32
◆ 地域福祉推進の支援体制	・ ・ ・ ・ ・ 33～34
※ 資料集	・ ・ ・ ・ ・ 35～53

第 1 章

能美市地域福祉活動計画の策定にあたって

◆ 「（マスコット）」が案内する大切なポイント



♥ 能美市地域福祉活動計画

能美市地域福祉活動計画は住民が参画し、住み慣れた地域で、安心・安全に暮らせる地域づくりに、いつ、どこで、だれが、どのようなことに取り組む、ということを協議し、取り決めた計画です。

平成18年度、能美市において策定された「能美市総合計画」や「地域福祉計画」「障害者計画」などの福祉計画と連携しながら策定しました。

♥ 能美市地域福祉活動計画の期間は5年間

能美市地域福祉活動計画は、平成20年度から24年度にかけての5年間の計画です。取り組みを実行し、年度ごとに取り組みの進捗状況や地域における効果について、皆が望む「まちづくり」になっているかを確認しながら、活動を見直していきます。

♥ 住民参画と住民参加

地域福祉においては、「住民参画」することにより計画段階から住民が積極的に関わることが大切です。また地域福祉活動により多くの「住民参加」が得られるように、広報誌だけでなく、言葉掛けや誘い合いが有効に働く地域の雰囲気づくりが大切です。

♥ 住民が計画づくりに参画する意義

福祉の意識は、一朝一夕に育つものではなく、それが醸成されるには継続した取り組みが必要です。地域に暮らす住民が、「地域福祉活動計画づくり」に参画し、＜地域のつながり・共生の意識＞を高めていくことが、地域全体で取り組む“私たちの地域福祉活動のスタート”と言えます。



一人ひとりが地域の
一員として考え
てほしいのです。

♥ 福祉は私たちの普段の暮らしに関わっています

今までは、「福祉」は、困っている人のもの、高齢者の介護や障がい者のためにあるものと思われていました。しかし、これからは、私たち一人ひとりの普段の生活に関わるもの、つまり＜**ふ**だんの **く**らしの **し**あわせ＞が「福祉」なのだと考えていきます。

♡ “ノーマライゼーション”は福祉の基本的な考え方

ノーマライゼーションは、障がい者や高齢者などを一般社会から引き離して特別扱いするのではなく、誰もが同じ人間として普通に生活を送ることがあたり前だとする考え方であり、誰もが共に生きる(共生)社会の実現を推進していく福祉の基本的な考え方です。

♡ “自助・共助・公助”は福祉の大切なポイント

誰もが、その人らしく尊重された生活をおくることのできる社会の実現のためには、**公助**としてのさまざまな制度の充実や、生活の基本である家庭や自分自身で出来ることを行なう**自助**、そして、その自助をさらに支援するための、ボランティア活動や近隣の見守り、支えあいといった住民の参加による**共助**の3つのしくみがあります。この「自助・共助・公助」の3つの福祉のしくみで、ネットワークを構築し、地域の絆を見直し、活性化させていくことが大切です。

♡ 地域福祉ってなあに？

地域福祉とは、日常生活を営む地域社会の中で、家族、近隣の人々、友人などとの豊かな関係を保ち、誰もが自分らしく誇りをもって、安心・安全にいきいきと暮らせる社会を具体化することを目指したものです。

地域に関わる全ての人(住民・事業者・社会福祉協議会・関係機関や市など)が力を合わせ、自助、共助、公助の福祉ネットワークを築き、地域の中での孤立を防いだり、制度の狭間に落ちないように気配りするなど、様々な課題に対して、「お互い様」といった関係を基本に“自分のこと”として、住民参画で解決に向けて取り組むことが大切です。

♡ 地域福祉で捉える“地域”とは？

地域福祉で捉える「地域」とは、住民の生活の場を基盤とします。身近な顔の見える範囲から、町会・町内会、小・中学校区、市全域など捉え方は様々ですが、住民のいろいろな福祉活動に応じて、無理のない取り組みができる範囲と考えます。



これまでは福祉というと、すぐ民生委員・児童委員さんや福祉推進員さんにおまかせ〜と、思われる方も多かったようですが、みんなが関わって支え合うことが大切なんですね。

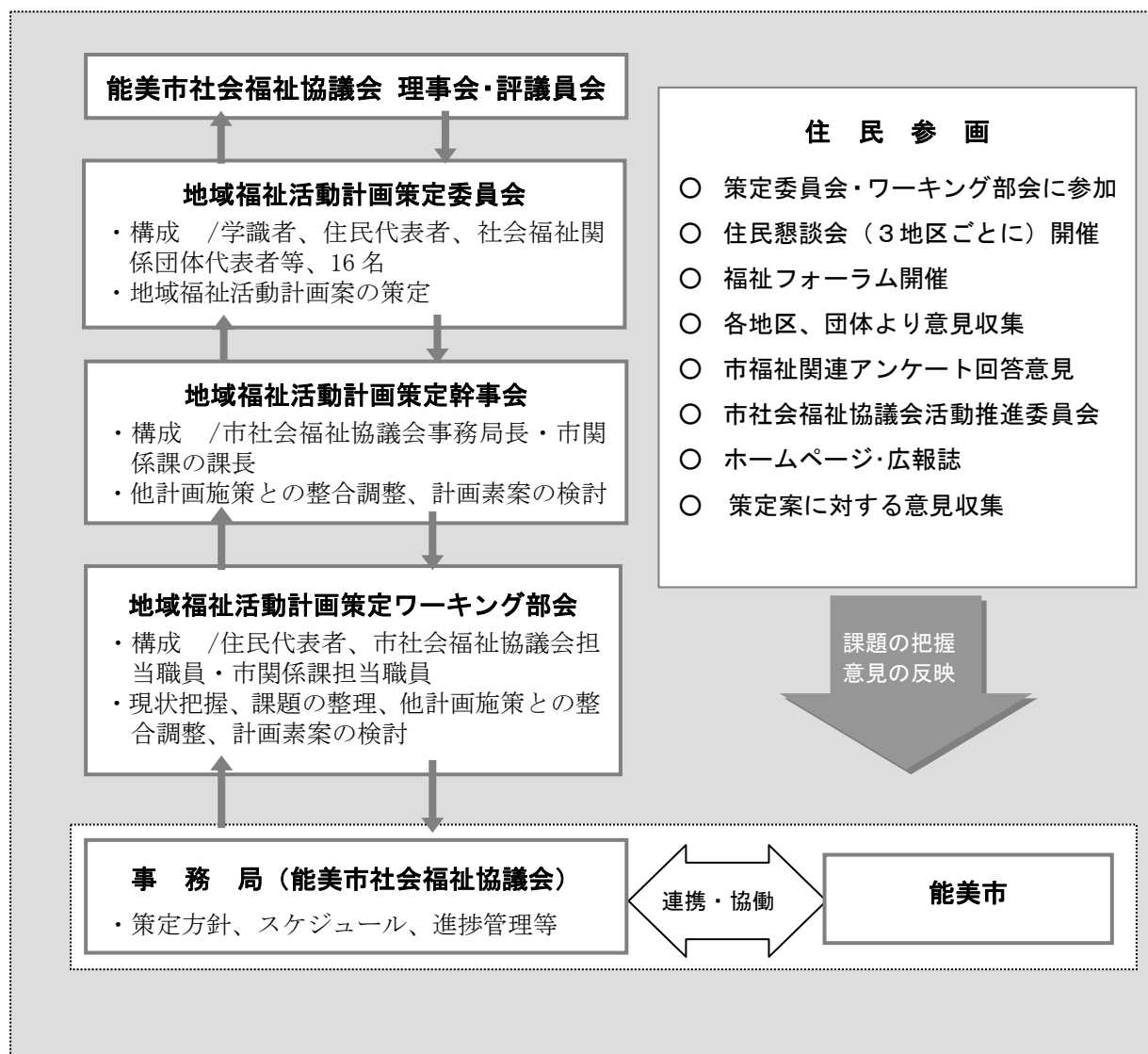
※ 文中の「住民」とは、能美市に住む人も、働く人も含めています。

第 2 章

能美市地域福祉活動計画策定の体制と経過



計画策定の体制



（能美市地域福祉活動計画策定委員会の設置要綱は資料集に掲載）



策定委員会（全6回開催）の様子



ワーキング部会（全22回開催）の様子

◆ 計画策定までの経過

月 日	会議内容	月 日	会議内容
平成19年 4月16日	◆第1回 策定ワーキング部会 ・各委員の選考、体制、スケジュール（案）承認 ・住民懇談会・ワークショップの企画検討 □第1回 策定幹事会 ■第1回 策定委員会 ・各委員の選考、体制、スケジュール（案）	10月6日 18日 29日	◎福祉フォーラム開催 ◆第11回 策定ワーキング ・現況と課題の整理（福祉フォーラム開催を受けて） ◆第12回 策定ワーキング ・現況と課題の整理
26日		11月6日 22日	◆第13回 策定ワーキング部会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討 ◆第14回 策定ワーキング部会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討
5月9日	◆第2回 策定ワーキング部会 ・現状の把握 ・住民懇談会：ワークショップの企画検討・実施 ◆第3回 策定ワーキング部会 ☆第1回住民懇談会（～7月にかけて3地区毎に開催） （講演とワークショップ） ・テーマ「地域福祉って一体なんや？むずかしいけ？」 現状と課題の提示（アンケート結果の要約をもとに） ◎理事会・評議員会 ・方向説明	12月10日 20日 25日	◆第15回 策定ワーキング部会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討 □第5回 策定幹事会 ■第4回 策定委員会 ・現状と課題の整理（福祉フォーラム開催をうけて） ・基本構想、アクションプラン（案）検討 ・マスコット・キャラクター募集の承認 ◎理事会・評議員会 ・経過説明
23日		平成20年1 月15日 24日	◆第16回 策定ワーキング部会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討 ◆第17回 策定ワーキング部会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討
31日		2月1～29日 4日 15日 26日 28日	マスコット・キャラクターと、その愛称の募集 ◆第18回 策定ワーキング部会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討 ◆第19回 策定ワーキング部会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討 □第6回 策定幹事会 ■第5回 策定委員会 ・基本構想、アクションプラン（案）検討 ・ご意見募集（社協本支所窓口閲覧・配布、HP）承認 ◆第20回 策定ワーキング部会 ・策定委員会を受けて
6月13日	◆第4回 策定ワーキング部会 ・現況と課題の整理 ・住民懇談会：ワークショップの企画検討・実施 ◆第5回 策定ワーキング部会 ☆第2回住民懇談会（講演とワークショップ） ・テーマ「どんなところや？ボランティアセンター」 □第2回 策定幹事会 ■第2回 策定委員会 ・現況と課題の整理	3月1～14日 19日 21日 25日 31日	策定案に対する意見募集＜ご意見箱の設置＞ ◆第21回 策定ワーキング部会 ・ご意見を受けて計画（案）の修正・最終案 □第7回 策定幹事会 ■第6回 策定委員会 ・基本構想、アクションプラン決定 ◎理事会・評議員会・報告承認 ◆第22回 策定ワーキング部会 ・策定委員会・理事会・評議員会での承認を受けて、計画書概要版の検討
19日			
26日			
7月12日	◆第6回 策定ワーキング部会 ・現況と課題の整理 ・住民懇談会：ワークショップの企画検討・実施 ◆第7回 策定ワーキング部会 ☆第3回住民懇談会（講演とワークショップ） ・テーマ「地域の見守り支え合いを考える」		
22日			
8月17日	◆第8回 策定ワーキング部会 ・住民懇談会を受けて、現況と課題の整理 □第3回 策定幹事会 ■第3回 策定委員会 ・住民懇談会開催を受けての現況と課題の整理		
28日			
9月7日	◆第9回 策定ワーキング部会 ・福祉フォーラムの運営検討 ◆第10回 策定ワーキング部会 □第4回 策定幹事会 ・福祉フォーラムの開催説明		
20日			

◆ 意見収集の方法

いろいろな場で、様々な方々からご意見や思い、希望などを伺いました。



第 3 章

私たちの思いから生まれた能美市地域福祉活動計画

◆ 計画の基本的な考え方

(1) 基本理念

住み慣れた地域で、私らしくいきいきと、安心・安全に暮らせるように、私たち自らが主体となって、あたたかい地域のつながりを深め、暮らしの中の様々な課題の解決に向けて、互いに支え合うことのできるまちづくりを目指します。

住民参画型 豊かな福祉社会の創造

(2) 基本目標

基本理念を受け、目標として掲げます。

私らしくいきいきと 安心・安全に暮らせる地域づくり

この基本目標を達成するため、住民の多くの意見をもとに、能美市地域福祉活動計画を組み立て、取り組んでいく＜方針＞と、それに添った＜アクションプラン＞を次の計画体系図にまとめました。（詳細な意見と関連、経過を記載した関連体系図は、資料集P. 41, 42に掲載してあります。）

(3) 方 針

目標に向けて実現する方針として、住民参画を基本とし、自助と共助の活動の活発化をめざすことを、大きく2つに分けて示します。

住民の参画意識をさらに高める ～ 自助・共助活動の推進のしくみづくり ～

住民参画のしくみをつくる ～ 共助活動の実践のしくみづくり ～

◆ 実行に向けて

★ アクションプランについて

アクションプランはくめざすこと>を実現するための具体的なプログラムであり、住民から寄せられた多くの意見より、積み上げてまとめました。

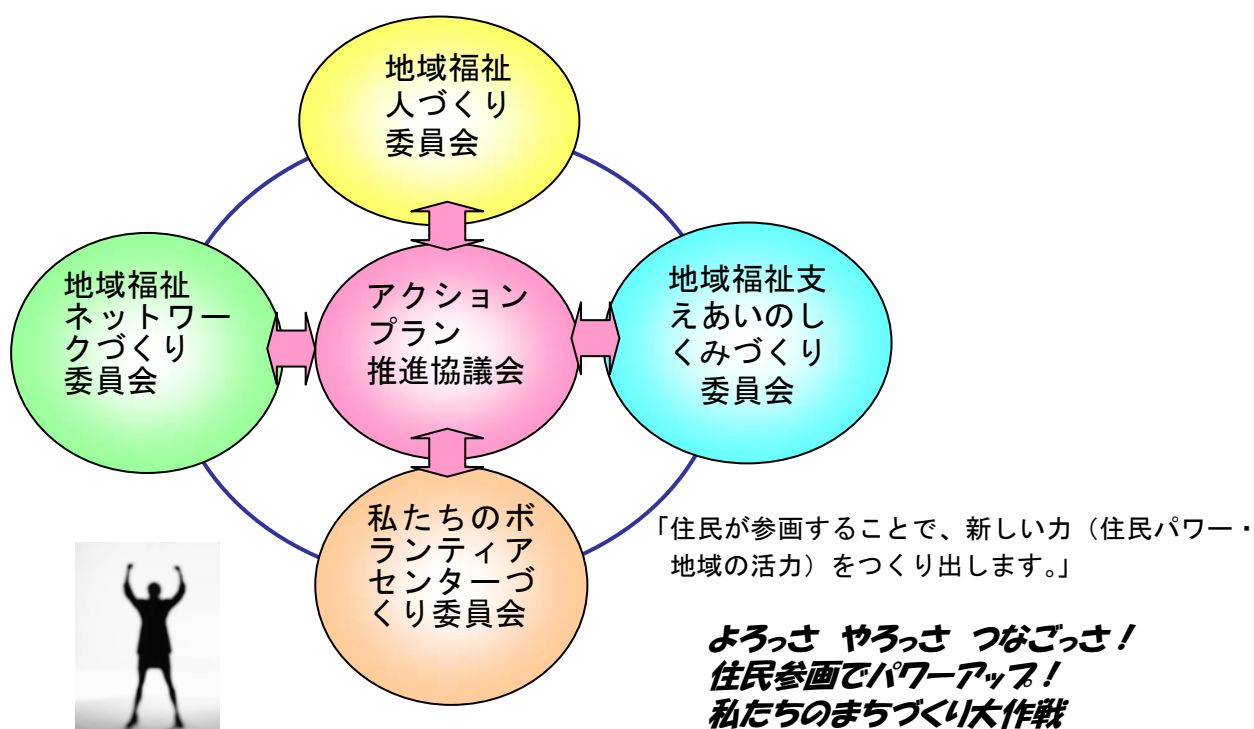
具体的に示せるプログラムの他に、今後、住民意見を反映するために、もっと検討しなくてはならないことも多いため、新たな住民参画の組織が必要になりました。

★ 平成20年度より、本計画で示した＜アクションプラン＞を実現していくための組織「アクションプラン委員会」を設置します。

- ・「絵に描いた餅」にならないように、取組みについての詳細や優先順位について、協議し、実行します。
- ・住民・地域の諸団体・事業者・社会福祉協議会・市がそれぞれの立場で、役割を果たしながら連携・協力します。
- ・参加から参画へ！計画実行は住民の手で！

★ 4つのアクションプラン委員会の各々、及び全体の進捗を確認する組織として、「アクションプラン推進協議会」を設置します。

アクションプラン委員会関係図



第 4 章

各アクションプラン委員会について

＜方針＞「住民の参画意識をさらに高める」自助・共助の活動推進のしくみづくり

◆ 地域福祉人づくり委員会

めざすこと	住民同士の豊かな関係をつくるために、地域での様々な交流の機会や、活動の場を創りだすことを通して、互いの思いを理解し、認め合い、共に暮らすことの大切さを理解できる「人材育成」の推進を目指します。																			
現 状 (事 例)	各地区で公民館などを会場にした世代間交流や、地域行事を基にした住民交流などが開催され、地域の絆づくりが活発化しつつあります。また学校においては、地域住民の協力を得た福祉教育を通じて「共生」意識を育む活動が、年々広がっています。さらに高齢者や障がい者などの社会参加の活動の機会も拡大してきています。 (世代間ふれあい交流・ふれあい福祉運動会・能美ふれあい踊りの夕べ等)																			
課 題	地域住民同士の交流や、障がい者の社会参加などの「機会づくり」には地域を大切に思う福祉の人材育成や、ノーマライゼーションの理解が必要であり、その意識の普及には時間がかかります。住民参画による長期的・計画的な福祉教育の取組みの構築が必要とされています。																			
アクションプラン	・ 地域に暮らす様々な人の思いについてお互いの理解と共生の意識を高める取組み ・ 世代間ふれあい交流の推進 ★ 認知症サポーター養成講座の開催 (★は 20 年度から実施予定) ★ 福祉教育の研究会の立ち上げ ★ 地域へのボランティア・担い手養成出前講座 ・ 相談事業の展開などの福祉専門職や施設の活用 ・ 企業も巻き込んだ団塊の世代の社会参加活動の推進 など																			
5 年間の指標 目 標 年 次	・ 交流の場への参加者数 1, 8 0 0 人を 3, 0 0 0 人に ・ 認知症サポーター養成講座の開催回数 8 回から 3 0 回 目標年次 <table><tr><th>20年度</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>23年度</th><th>24年度</th></tr><tr><td>委員会立上げ</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td></tr><tr><td>詳細決定・★実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td></tr></table>					20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討	詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施
20年度	21年度	22年度	23年度	24年度																
委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討																
詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施																
委 員 構 成	自治公民館連絡協議会		手をつなぐ育成会																	
	民生委員児童委員協議会		ボランティア連絡協議会																	
	福祉施設や事業所		学校																	
	老人クラブ連合会		一般公募																	
	身体障害者福祉協議会		市関係課																	

(現状の事例いろいろ)



住民同士のいろいろな交流がありますね

グループホームあおぞらと栗生小学校との交流

あおぞらの行事（流しそうめんやクリスマス会）に、栗生小学校の生徒が訪問交流したり、また、小学校行事（運動会や6年生を送る会）に、あおぞらのお年寄りが招待を受けたりして、毎年交流を深めています。小学生と接するとお年寄りの目は輝き、中には涙ぐんで「ありがとう、ありがとう」と、両手を合わせている方が何人もいました。



グループホームで、折り紙を楽しみました

ふれあい福祉運動会

レクリエーションやスポーツを通じ、障がい者の健康の増進や、交流をはかると共に、社会参加活動としても、広くボランティアや地域住民の参加を得て毎年開催しています。地域住民へのノーマライゼーション・共生の意識の普及と啓発を目的としています。



パン食い競争などでも笑顔が溢れていました

能美ふれあい踊りの夕べ

地域に暮らす様々な人たちが、「ふれあい踊りの夕べ」の実施に向けて実行委員会を立ち上げ、意見や思いを出し合いながら、お互いの理解を深めています。また、踊りの夕べ参加者に向けて、各々の団体や施設をアピールすることで、地域との結びつきを意識する機会としています。



多くの団体が参加して開催しています

福祉教育 小学校での様子

総合的な学習の一環として、車いすやアイマスク・ガイド体験や障がい者との交流を図っています。



体験したり、話し合うことで新しい発見があります



住民参画型

豊かな福祉社会の創造

住民参画で
共生社会(ノーマ
ライゼーション)づ
くりをすすめよう

透明性
主体性・評価

社会への貢献(地域で暮らす私
たちはお互いさまで助けあおう)

福祉教育をすすめるボランティア・コミュニティ活
動支援センターへ参画しよう

- ・より多くの人へ共生社会の理解をすすめよう
- ・支援を要する人たちが、地域の中でもっとふれあったり、もっと社会参加ができるような機会や場所をつくろう
- ・「助けて」と気軽に声に出すことができたり、気軽に支援することができる地域社会を目指そう
- ・「共生」の理解をした人たちが、その気持ちを更に「助け合い・支えあい」のしくみに参加していくことを目指そう

地域とは多様な人たちが暮らすところであり、
だれもが一人ひとり、尊重される地域社会
づくりが大切だ

- ① 普段の暮らしの幸せは、同じ地域に住む私たちみんなの課題だ
- ② 地域の中に「障がいを持った私(たち)」「一人暮らしをしている高齢の私(たち)」「子育てをしている私(たち)」がいることを地域に住む誰にもわかって欲しい
- ③ 高齢者であっても障がい者でも、同じ人間であり、人として尊重される地域社会が大切だ
- ④ いろいろな人が互いの人権を認め合い、共に生きていくことの大切さをもっと多くの人に知ってもらいたい

住民意識

福祉に参加した私たちは、困っている人を
支援するのはあたり前だ

- ① 福祉に関心のある人は、感心な人だ
- ② ボランティア講座に参加したら、福祉について、自分のこととして考えていくようになった
- ③ 高齢者や障がい者と交流したら、みんな同じ地域に暮らしている人なんだと思った
- ④ 学校や地域で、アイマスクや車いすなどの体験をしたら、困っている人の気持ちが理解してきた
- ⑤ 地域の中に「障がいを持った私(たち)」「一人暮らしをしている高齢の私(たち)」がいることをわかって欲しい
- ⑥ 障がいがあっても、生活上の支援や、余暇活動(趣味や生きがいづくり)なども支援を受けながら、地域で暮らしていきたい

住民意識

自分の日常生活上のちょっとした困りごとは
自分自身の課題だ

- ① 私は私の人生をどのように生きるか考えてみたい
- ② 私は私自身の「老い」「障がい」「家族」とどのように向き合うのか考えてみたい
- ③ 私は家族の絆を考えてみたい
- ④ 私は福祉の世話にはなりたくない
- ⑤ 私は元気だから福祉とは無関係

協働・連携
ネットワーク

他者への貢献(ちょ
っとしたことなら手助
けできる)

社会福祉協議会ボランティアセンターへ
参加していた

- ・学校や地域で高齢者や障がい者の思いを理解し、支援をしていくことを行ってきた
- ・当事者(団体)の思いや活動を発信していく機会をつくってきた
- ・同じ悩みを持つ人同士が、組織化してお互いに助けあうことを支援してきた
- ・ボランティア講座や福祉のつどいなどを開催し、ふれあいの機会をつくったり、ボランティア意識の育成をしていた
- ・福祉の課題の支援を要している人と、支援をしたい人をマッチングしてきた

問題の共有
学習会や
交流

個人の余暇・楽しみ
・生きがい大切

- ・保健師等の健康指導や相談
- ・当事者への個別の支援や相談
- ・当事者団体の活動への参加
- ・各種生涯学習講座への参加
- ・各種つどいやスポーツへの参加

このまちが好き! この住み慣れたまちで いつまでも安心して
自分らしく いきいきと 暮らし続けたい!

住み慣れた地域で暮らし続けたい イメージ

● ● ● わかる つながる 分かち合う ● ●

「わかる・つながる・分かち合うは大切なキーワード!!」

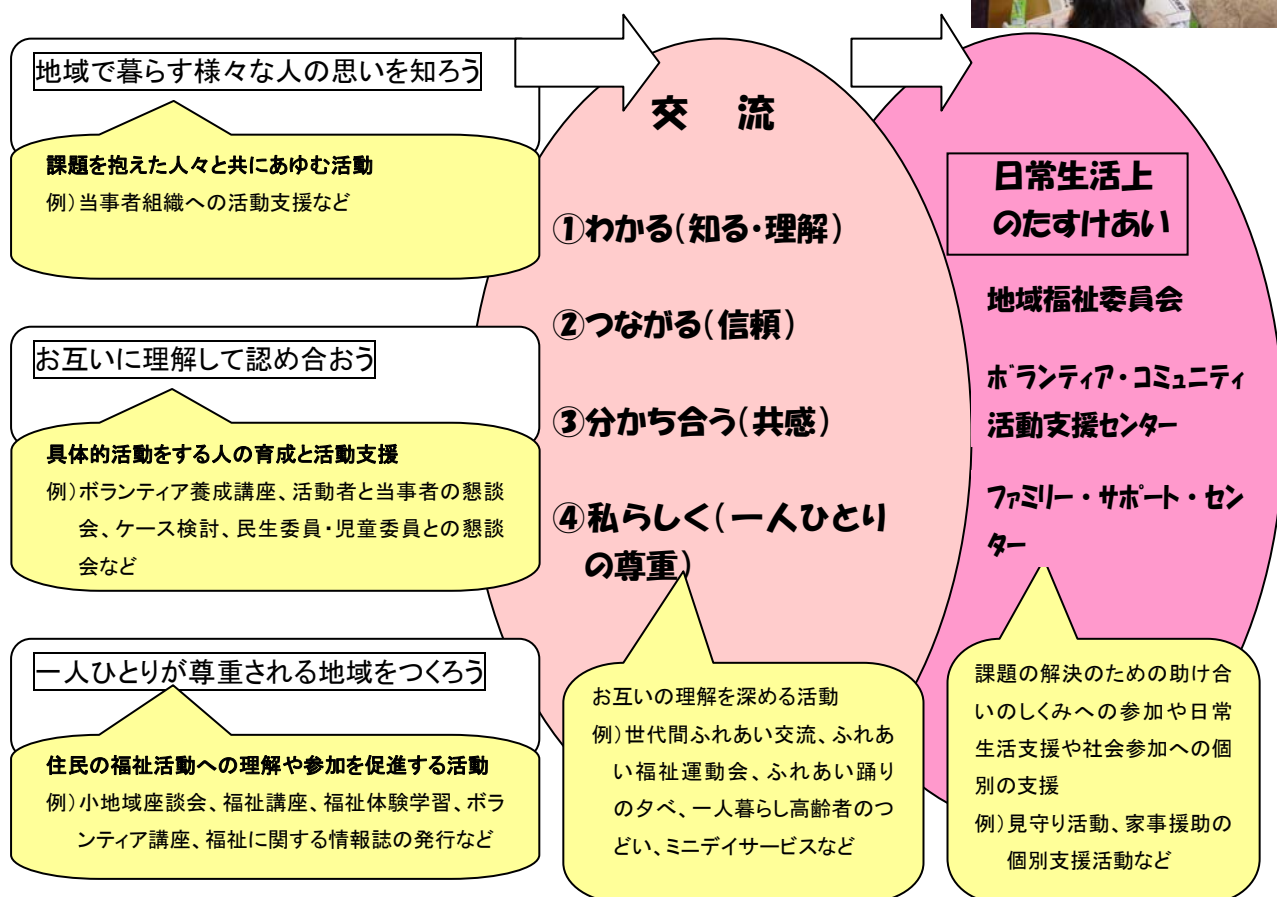
「課題を持つ人々も共にみんなで参画」する活動に

「誰もが住み慣れた地域で暮らし続けたい・・・」この願いをかなえていくためには、地域で暮らす住民が、日常生活上の暮らしにくい様々な課題を、積極的に捉え、いろいろな課題を持つ人々も共に参画して解決に向けて取り組んでいくことが必要です。

しかし、課題を持つ人々がどのような思いを持っているのか、地域で生活する上で何に困っているのか、想像だけでは限界があります。また、知らない者同士が、支援活動をするにもお互いに不安があります。

そこで、まずは「ちょっと声をかけてみる。顔見知りになる。相手のことがわかってくる・・・」共感しあって、信頼が生まれ、一人ひとりが尊重される〈わかる・つながる・分かち合う〉ことから〈一人ひとりが尊重され、私らしく生きる〉ことができる「共生社会」が実現されていきます。

まなびフェスタ2008
第7分科会「住み慣れた地域で暮らし続けたい」
意見交換の様子



◆地域福祉ネットワークづくり委員会

めざすこと	地域での生活上の課題の解決に取り組む「地域福祉委員会」の設置を推進し、更に見守り活動やいきいきサロン、懇談会などの「つどい・話し合える」場づくりを目指します。																			
現 状 (事 例)	能美市地域福祉計画において、住民主体の地域福祉活動の推進を目的とした「地域福祉委員会」を、町会・町内会において設置することが打ち出され、災害時の対応として、支援を必要とする人の情報の共有をはかる「福祉見守り安心マップ」の作成に着手したところです。 各地域では、既に「地域福祉委員会」の基盤となる、見守りネットワーク活動＜地域福祉活動推進チーム・見守り会・ほっとネットワーク＞が存在しており、また、閉じこもり予防と住民交流の場としてのいきいきサロンや見守り交流会も、市内全域で活発に取り組まれています。 (見守りネットワーク活動、ふれあいいきいきサロンや見守り交流会)																			
課 題	生活の場を基盤とした住民同士の、見守り活動を中心にしたつながりづくりを「見守りネットワーク活動」と呼び、支援から生まれる交流を深め、地域社会の一員として、信頼のネットワークをつくり出すことが重要とされています。 そこで、町会・町内会ごとの、見守り体制の検討・実施組織として、「地域福祉委員会」の組織づくりをすすめ、災害時の支援体制の構築や、すでに先進的な取り組みもみられる平常時の見守り体制の、全市的な組織化を通して、さらに地域の絆づくりを推進していきます。																			
アクションプラン	・地域福祉委員会の設置 ★モデル地区指定 見守りネットワーク活動の充実 住民懇談会の開催 (★は 20 年度から実施予定) ★いきいきサロン連絡会の立上げ ・児童の見守り体制の充実 ・情報弱者向け情報提供・支援体制の整備																			
5 年間の指標	地域福祉委員会の設置を平成 2 3 年度までに 7 4 町会・町内会に 設置後は、地域福祉委員会の充実を図ります。 目標年次 <table><tr><th>20年度</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>23年度</th><th>24年度</th></tr><tr><td>委員会立上げ</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td></tr><tr><td>詳細決定・★実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施・充実</td></tr></table>					20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討	詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施・充実
20年度	21年度	22年度	23年度	24年度																
委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討																
詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施・充実																
目 標 年 次																				
委 員 構 成	町会連合会		自治公民館連絡協議会																	
	民生委員児童委員協議会		婦人団体連絡協議会																	
	福祉推進員		いきいきサロン運営ボランティア																	
	福祉施設・福祉事業所		一般公募																	
	老人クラブ連合会		市関係課																	

(現状の事例いろいろ)



「あれ？最近お顔を見かけなくなったかな」など
最初に気づくのはご近所
さんですね！

見守りネットワーク活動

民生委員・児童委員が中心となり、町会役員や近隣住民と共に、一人暮らし高齢者や高齢者のみ世帯などの地域で援助が必要な方に対して、安心して暮らせるように、自然な付き合いのなかでの安否確認や見守りを行っています。

根上地区では、地域福祉活動推進チーム	20 団体
寺井地区では、見守り会	20 団体
辰口地区では、ほっとネットワーク	10 団体



見守りが必要な一人ひとりについて考えています

ふれあいいきいきサロン

地域住民が主体となって、行っている高齢者の閉じこもり予防や仲間づくりの活動です。見守りの機会としても活発に取り組まれ、市内でもすっかり地域に根付いた活動になっています。

根上地区	21 サロン
寺井地区	26 サロン
辰口地区	38 サロン・・・(9 サロンが H19 年度未実施)



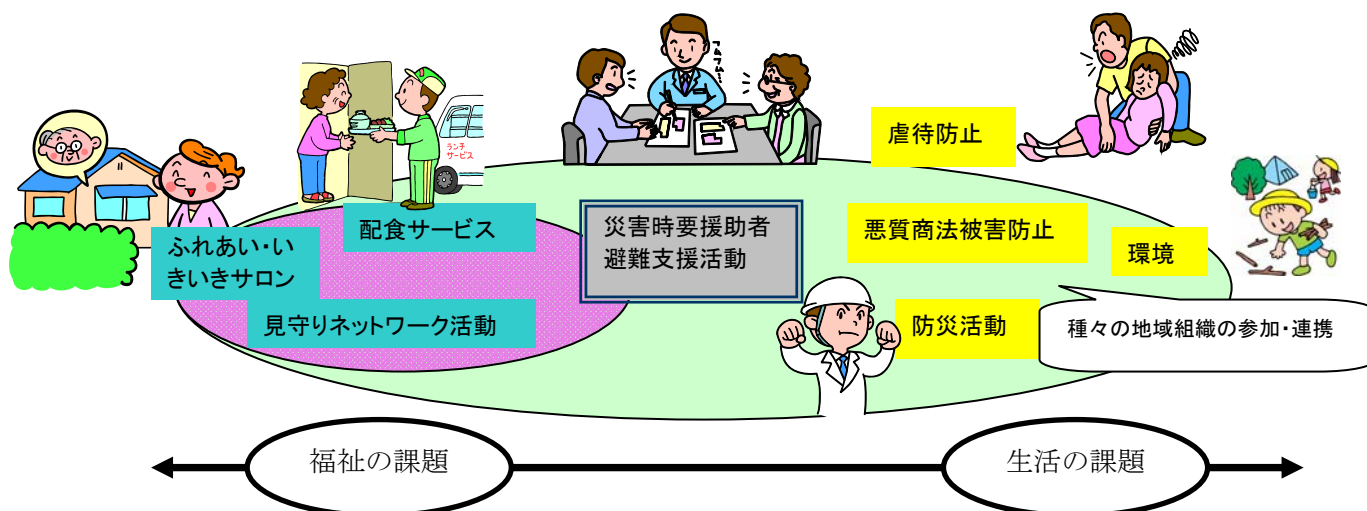
軽く身体を動かすなど、なごやかに過ごします

※上記の数値は平成 20 年 3 月 31 日現在のものです。

＜福祉の課題＞から日常の＜生活の課題＞への広がり

地域の中の気になることや困りごとといえば、以前は、高齢者や障がい者などの安否の確認、生活の支援などの福祉の困りごと＜福祉の課題＞が中心でしたが、最近では、虐待・悪質商法被害・環境・防災活動など、日常の生活の中での気になること＜生活の課題＞まで、範囲が広がってきました。

「地域福祉委員会」では、住民が安心・安全に暮らすことができるよう、日常の生活の不安や困りごとなども、みんなの課題として、互いに語り合い、その解決に向けて取り組んでいきます。



**住民参画型
豊かな福祉社会の創造**

**住民参画の
地域活動の基盤
「地域福祉委員会」
をつくらう**

透明性
主体性
評価

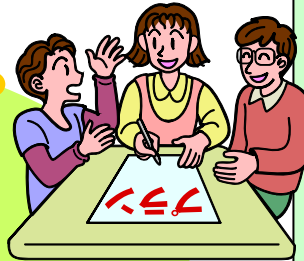
**社会への貢献(地域で暮らす私
たちはお互いさまで助けあおう)**

地域福祉委員会をつくらう

- ・地域の日常生活の課題である「防災」「防犯」「普段の見守り」「要支援者の生活を支援する」「ふれあい交流」などを、地域 みんなが考える場所と実際に行なっていく組織「地域福祉委員会」をつくらう
- ・町内の役員ばかりではなく、より多くの住民が参加し、一緒に考え、住民活動をしていくための組織「地域福祉委員会」をつくらう
- ・町内会の実情にあわせて、各町内会ごとの「自分たちの地域福祉委員会」をつくらう

**日常生活上のちょっとした困りごとは、
地域で暮らす私たち全体の課題だ**

- ① 普段の暮らしの幸せは、同じ地域に住む私たちみんなの課題だ
- ② 私たちの日常生活上の課題は、分野ごとには対応しにくい
- ③ 役員が変わっても、日常生活上の困りごとへの対応は、変らないから、ずっと対応を考えて活動していく組織が必要だ
- ④ 地域の日常生活の課題である「防災」「防犯」「普段の見守り」「要支援者の生活を支援する」「ふれあい交流」などを地域 みんなが考える場所と実際に行なっていく組織が必要だ



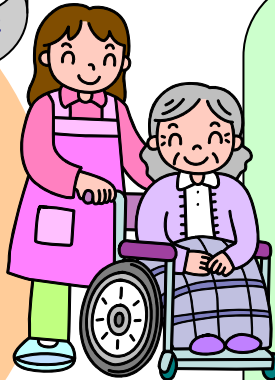
協働・連携
ネットワーク

**他者への貢献(ちょ
っとしたことなら手助
けできる)**

**日常生活上のちょっとした困りごとは、
同じ困りごとをもつ我々の課題だ**

- ① 福祉の課題は、主に民生委員・児童委員や福祉推進員、町内の役員が対応していた
- ② 防災や防犯の問題は、主に町内の役員が対応していた
- ③ 同じ町内にいるから、隣近所や町内会の困りごとは、あまり知らん顔はできない
- ④ 町内の公民館活動では、地域に住む私たちの連帯感や絆を盛り上げるような行事が必要だ
- ⑤ 町内の役員になったらまわり順番だから、しっかりやろう
- ⑥ 町内の中でも、災害と防犯、普段の見守りや交流は別々に行われていた
- ⑦ 役員が替わると今までの取り組みも変ることがある
- ⑧ 元気うちに福祉のことを考えたり、活動に参加したい

住民意識



町内会や公民館の地域活動をしていた

- ・役員の当番になったら参加していた
- ・今までも隣近所の自然な助け合いがあった

ボランティアグループやサークルの活動をしていた

- ・同じ悩みを持つ人同士が、グループ化してお互いに助けあっていた
- ・ボランティア講座や社会教育講座の修生などが、ボランティア意識をもって支援活動をしていた

**自分の日常生活上のちょっとした困りごとは
自分自身の課題だ**

- ① 私は私の人生をどのように生きるか考えてみたい
- ② 私は私自身の「老い」「障がい」「家族」とどのように向き合うのか考えてみたい
- ③ 私は家族の絆を考えてみたい
- ④ 私は福祉の世話にはなりたくない
- ⑤ 私は元気だから福祉とは無関係

住民意識



問題の共有
学習会や
交流

**個人の余暇・楽しみ
・生きがいが大切**

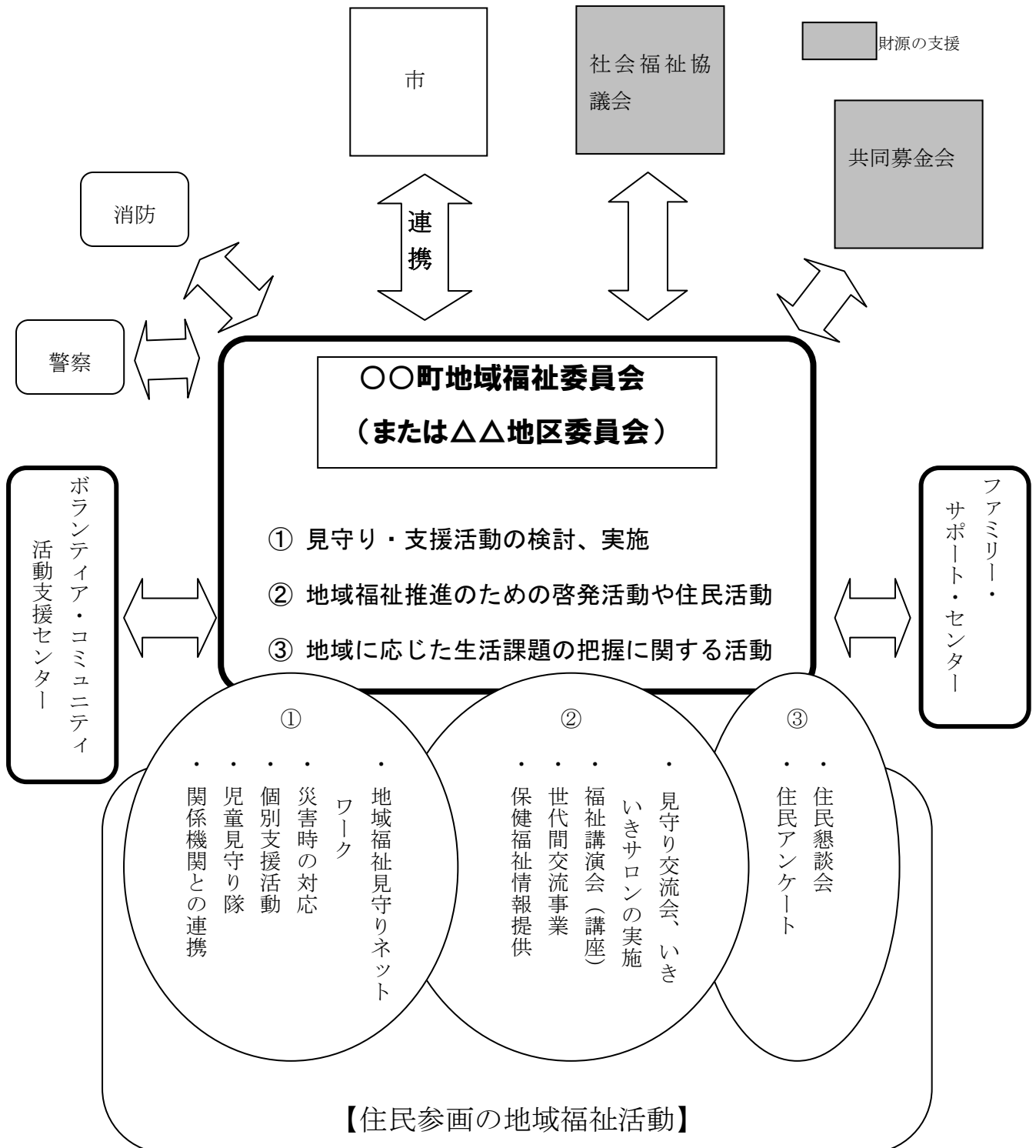
- ・保健師等の健康指導や相談
- ・当事者への個別の支援や相談
- ・当事者団体の活動への参加
- ・各種生涯学習講座への参加
- ・各種つどいやスポーツへの参加

**このまちが好き！この住み慣れたまちで いつまでも安心して
自分らしく いきいきと 暮らし続けたい！**

地域福祉委員会の活動のイメージ

● ● ● 地域の、安心・安全、信頼のネットワーク ● ● ●

地域福祉委員会は、生活を基盤とした同じ地域の中で暮らす住民自らが、どんな時にでもお互いに助け合い、支え合えるような「安心・安全」の、そして信頼のつながりを創り出すことを目指します。



◆地域福祉支えあいのしくみづくり委員会

めざすこと	地域の住民同士が、気軽に手を貸し合い、暮らしを支えあうことができる「しくみ」を創ります。																		
現 状 (事 例)	近年、地域に暮らす高齢者や障がい者などの日常生活上での自立の支援や、核家族化がすすみ、育児サポートの必要な家庭における子育ての支援についても、社会全体で考える課題であるという考え方が出てきています。 しかし、それらの課題に対しての柔軟なサービスが、十分には整備されていない状況です。特に子育て支援に関しては、保育園での一時保育制度などもありますが、時間外、休祝日、病中児などの託児を望む切実な声も出されています。																		
課 題	地域における自立生活への支援や子育て等への支援の必要性に関して、住民への理解の浸透を図ることが必要になっています。中でも子育てに関するいろいろな悩みや要望に対する、早急な対応や、情報の提供や総合的な相談窓口の充実が強く求められています。																		
アクションプラン	「支えあいのしくみ」のモデルとして、子育て支援のしくみファミリー・サポート・センターから取り上げてすすめます。 ★「支えあいのしくみ」「たすけあい」に関する住民の理解をすすめる 関係機関との連携をはかる（相談窓口の充実） ★ ファミリー・サポート・センターの運営の企画・実践（運営委員会構築） ★ 子育てサポーター養成講座や交流の機会をつくる（★は20年度から実施予定）																		
5年間の指標 目 標 年 次	- ファミリー・サポート・センター利用件数 50件に - 登録者数 協力会員 50人以上に、 依頼会員 50人以上に - サポーター養成講座の開催を年1回 - サポーターフォローアップ研修会及び交流会を年2回 目標年次 <table border="1"> <thead> <tr> <th>20年度</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>23年度</th><th>24年度</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委員会立上げ</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td></tr> <tr> <td>詳細決定・★実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td></tr> </tbody> </table>				20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討	詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施
20年度	21年度	22年度	23年度	24年度															
委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討															
詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施															
委 員 構 成	子育てに関わるボランティアグループ・団体		子育て支援センター																
	民生委員児童委員協議会		保育園・児童館																
	町会連合会		学校																
	企業		市関係課																
	一般公募																		

(現状の事例いろいろ) 地域の中での支え合い活動・子育ての支援活動

みんなの意識
や考え方の理
解があって、
初めてしくみ
が活きます。

<のみ・子育てネットワーク>

「子ども達が、心も体ものびのびと
健やかに育つために」「子育てしやす
い地域にするために」人と人がつなが
り、できることから取り組んでいます。



熱心な話し合い



<リパティ fam>の託児活動



まなびフェスタ分科会での
子育てについての話し合い

民生委員・児童委員による「新
生児誕生おめでとう訪問」や、
主任児童員による子育てに関
する相談活動を行っています。

<親子サロン>

誰でも自由に参加
でき、親同士の仲
間づくりや情報交
換・絆づくりとし
ての地域の支援活
動。3地区で開催
しています。



親子サロンは気軽に立ち寄れる場です

「子どものけんりCAPいしか
わ」が、子ども自身が、いじめ
や暴力から、自分を守るための
人権教育プログラムの周知と啓
発活動をすすめています。

**地域のニーズに対応するには、柔軟で、豊富な、
きめ細かい活動が必要です。有効的につながり
あえれば、支え合いの大きな輪になります。**

<子育て支援センター>

保育園や幼稚園に通っ
ていない親子を対象
に、育児の悩みや不安
などの相談を受け付け
ています。また、親子
のつどいの場を開催
し、子育てのお手伝い
をします。

能美市の保育支援として通常保育・乳児保育や延
長保育があります。特に「**マイ保育園制度**」として、
市立保育園を身近な子育て支援の拠点として、保
育士等による育児相談や一時保育の利用を通じ、
妊娠時から3歳未満のお子さんをお持ちの子育て
家庭に対応し、相談相手がいるという安心感を提供
しています。

<サービス内容>

☆育児体験(無料)

出産前の方を対象に保育園見学、おむつ交換、
授乳などの育児体験が行えます。

☆一時保育

平日午前半日の一時保育サービスが登録期間
中に3回まで無料で受けられます。

☆子育て支援(無料)

保育士等による育児相談が受けられます。



住民参画型

豊かな福祉社会の創造

住民参画の
ファミリー・サポ-
ート・センターをつく
ろう

透明性
主体性
評価

社会への貢献(地域で暮らす私
たちはお互いさまで助けあおう)

ファミリー・サポート・センターの運営に参画しよう

- ・子育ての支援のさらなる充実をめざし、子育てのファミリー・サポート・センターからはじめよう
- ・より多くの住民が支え合いのしくみに参加することを旨とするサポートセンターにしよう
- ・地域での支え合いの力を醸成することを目指そう
- ・地域のいろいろなネットワークが積極的に連携をして、支え合いの輪が更に広がることを目指そう

日常生活上のちょっとした困りごとは、
地域で暮らす私たち全体の課題だ

- ① 子育て支援は、少子高齢社会の中の課題のひとつであり、社会全体で考えていく課題だ
- ② 障がいがあっても地域で暮らすことがあたり前だと思ふ私たちは、地域で暮らすには、社会の理解とちょっとした手助けがほしい
- ③ 介護保険法や障害者自立支援法などの制度もあるが、均一的でかえって対応ができないところもある
- ④ みんな地域で暮らす同じ人間だ、お互い様の心を形にして、みんなでちょっとした手助けをしあいたい

協働・連携
ネットワーク

他者への貢献(ちょ
っとしたことなら手助
けできる)

日常生活上のちょっとした困りごとは、
同じ困りごとをもつ我々の課題だ

- ① 高齢者や障がい者、子育てなどのちょっとした困りごとを助けて欲しい
- ② ちょっとした困りごとへの手助けが欲しくても、他の人に頼んでばかりでは気兼ねだ
- ③ 福祉関係のボランティア・団体の活動の支援をして欲しい
- ④ 地域や学校などで福祉教育をすすめて、もっとボランティア活動の啓発や意識を育成して欲しい
- ⑤ 手助けをして欲しい人になりたい人をマッチングしてくれるところやその情報が欲しい
- ⑥ 元気なうちに福祉のことを考えたり、活動に参加したい

住民意識

ボランティアグループやサークルで
活動に参加していた

- ・同じ悩みを持つ人同士が、グループ化してお互いに助けあっていた
- ・ボランティア講座や社会教育講座の修了生などが、ボランティア意識をもって支援活動をしていた
- ・社会福祉協議会ボランティアセンターが、支援を欲しい人と支援をしたい人をマッチングしていた

民生委員・児童委員や福祉推進員
が、見守り活動を行っていた

シルバー人材センターへ登録してい
た

自分の日常生活上のちょっとした困りごとは
自分自身の課題だ

- ① 私は私の人生をどのように生きるか考えてみたい
- ② 私は私自身の「老い」「障がい」「家族」とどのように向き合うのか考えてみたい
- ③ 私は家族の絆を考えてみたい
- ④ 私は福祉の世話にはなりたくない
- ⑤ 私は元気だから福祉とは無関係

住民意識

問題の共有
学習会や
交流

個人の余暇・楽しみ
・生きがいが大切

- ・保健師等の健康指導や相談
- ・当事者への個別の支援や相談
- ・当事者団体の活動への参加
- ・各種生涯学習講座への参加
- ・各種つどいやスポーツへの参加

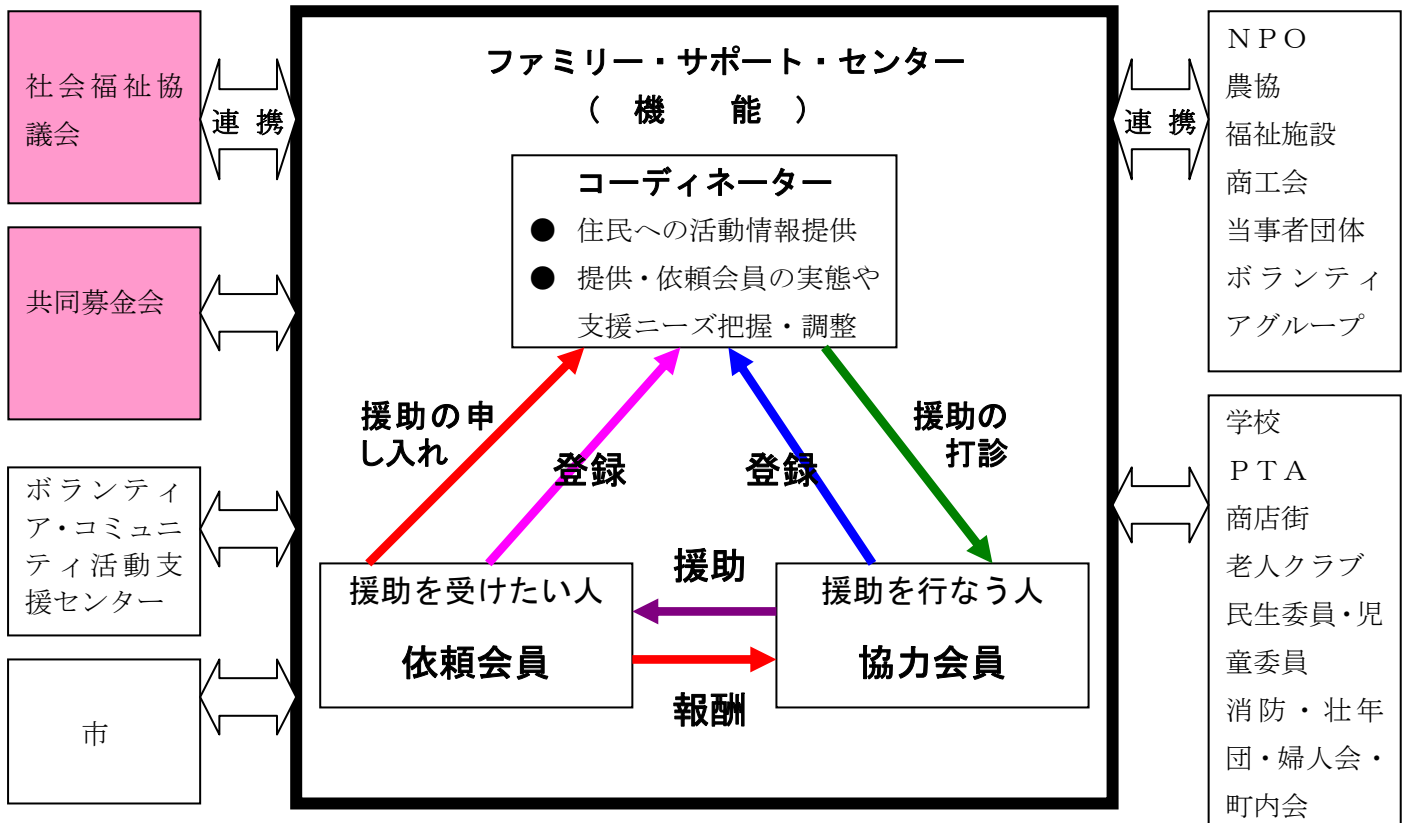
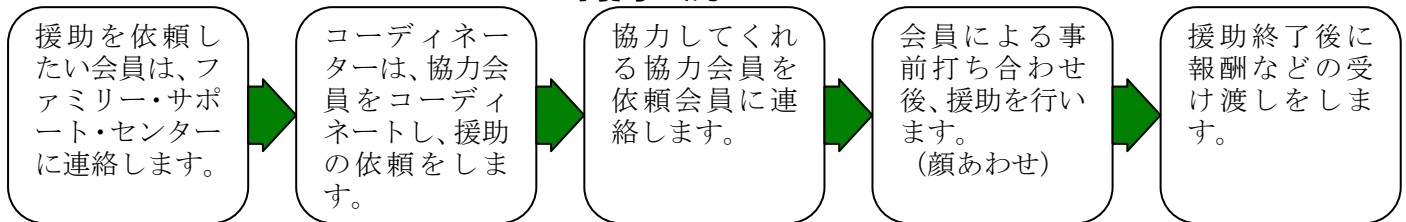
このまちが好き！この住み慣れたまちで いつまでも安心して
自分らしく いきいきと 暮らし続けたい！

ファミリー・サポート・センターのイメージ

● ● ● 自主的に、お互い様が、継続的に ● ● ●

ファミリー・サポート・センターは、地域に暮らす住民同士の相互援助の気持ち循環することを目指すしくみのひとつです。まず、子育ての共助のしくみを創りあげていくことを支援していきます。

● 利用の流れ ●



財源の支援

連携



地域福祉活動の拠点〈地域福祉委員会〉

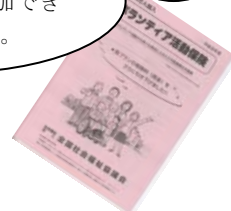
●いきいきサロン活動 ●見守り・交流・防災活動 ●福祉教育・学習活動 ●共同募金運動

◆私たちのボランティアセンターづくり委員会

めざすこと	誰でも気軽に利用し、地域の様々な住民活動を支援する身近な「情報の拠点・地域づくりの活動の拠点」を創ります。																			
現 状 (事 例)	現在、社会福祉協議会ボランティアセンターが3地区に存在し、ボランティアに関する相談窓口として、ボランティアを「したい・してほしい」個人や団体をつなぐ調整やボランティア活動の支援、情報提供を行い、ボランティア人口の拡大に努めています。これまでは、福祉課題を持つ要支援者への個別支援や、福祉分野のボランティアの育成が中心に行われていましたが、現在は住民意識の活発化にあわせて様々な分野の活動が広まり、ボランティア同士の連携を図るボランティア連絡協議会においても、互いの活動紹介や交流、活発なネットワークづくりによる活動の質の向上を望んでいます。 (ボランティアと福祉のつどい・ジュニアボランティアクラブ・介護員養成講座など)																			
課 題	住民の活動は、地域への愛着を原点とした活動やコミュニティとしての生活に密着した（環境・防犯・防災・まちづくり）活動、NPO 活動などへ広まっています。そして、これらの住民の活力を、複雑・多様化する福祉課題・生活課題に対応した「福祉のまちづくり」につなげていくことが求められるようになってきました。 市においても市民活動団体との協働を推進するガイドラインを策定中であり、これらとの連携を含め、地域に根付いたコミュニティ活動を支援するしくみとして、今後のボランティアセンターのあり方が問われています。																			
アクションプラン	★ ボランティア・コミュニティ活動支援センター運営委員会の構築 ・ 住民の相談窓口としてのマッチング機能充実 (★は20年度に実施予定) ★ ボランティアの活動拠点としての情報システムの構築 ・ ボランティア個人や団体の活動支援や交流の場づくり ・ 各年代層や各地区・各分野へのボランティア意識の啓発と人材育成																			
5年間の指標	・ ボランティア登録者数 2,323人を 4,900人に ・ ボランティア活動把握者数 3,965人を 6,200人に ・ ボランティア講座数（延べ）14講座を 20講座に																			
目 標 年 次	<table><tr><th>20年度</th><th>21年度</th><th>22年度</th><th>23年度</th><th>24年度</th></tr><tr><td>委員会立上げ</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td><td>評価・検討</td></tr><tr><td>詳細決定・★実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td><td>実施</td></tr></table>					20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討	詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施
20年度	21年度	22年度	23年度	24年度																
委員会立上げ	評価・検討	評価・検討	評価・検討	評価・検討																
詳細決定・★実施	実施	実施	実施	実施																
委 員 構 成	ボランティア連絡協議会		学校																	
	老人クラブ連合会		壮年団																	
	手をつなぐ育成会		町会連合会・自治公民館連絡協議会																	
	福祉関係施設や事業所		一般公募																	
	商工会		市関係課																	

(現状の事例いろいろ) ボランティアセンターでは

ボランティア活動はだれでも自由に参加できる身近な活動です。



- **ボランティア登録** (ボランティア活動保険の窓口として)
- **相談・斡旋** (ボランティアしたい・してほしいなどの様々な相談や対応)
- **啓発・周知** (市ボランティア連絡協議会情報誌「ボラ♥はあと」や、ボランティアだよりなど情報発信し、ボランティア活動の普及に努めている。)



- **育成** (各年代層に対してのボランティア体験講座や福祉の人材育成を目的とした講座の開催)



幼稚園児の福祉体験としての「ちびっこふくしニコニコタイム」



小学生から一般の方まで参加のボランティア体験をするジュニアボランティアクラブ



訪問介護員養成研修(2級課程)



要約筆記奉仕員養成講座



団塊の世代これから探し講座

支援 (ボランティア団体や福祉協力校への活動支援)

上記「ちびっこふくしニコニコ隊」などのように、ボランティアグループが更に活発に活動できるよう、連絡調整等の運営面や助成金等の支援を行っている。

「慰問する時は、先入観を持たないで」など福祉協力校連絡会で、先生方とボランティアが共に学び、話し合いました



- **交流** (ボランティア同士や関係者間の情報交換がすすむよう、様々な機会を設定し、ボランティア活動の発展と、多くの住民への意識の普及を進めている。)

ボランティアと福祉のつどい

市内で活動する福祉活動者や、様々なボランティア、福祉施設、事業所等が一堂に会し、「住民参加のまちづくり」を、広く地域住民にアピールしていく機会として毎年開催



多くのボランティア団体や福祉関係者が実行委員会として参画

- **連携** (能美市ボランティア連絡協議会との連携を図り、研修や視察の設定や連絡調整などを行いながら、更なるボランティア活動の広まりと高まりを支援している。)



能美市ボランティア連絡協議会総会

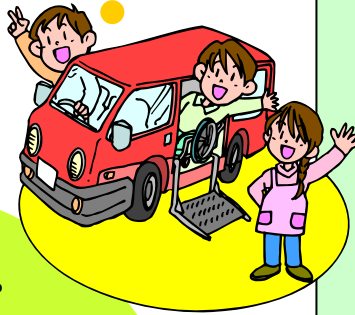


地区研修会を開催

住民参画型 豊かな福祉社会の創造

住民参画の
ボランティア・コミュ
ニティ活動支援
センターをつくらう

透明性
主体性・評価



社会全体がつながりあって
共に考え創りだそう

ボランティア・コミュニティ活動支援センター

- ・いろいろな住民活動やボランティア活動に力を発揮できるような人材育成をしよう
- ・ボランティアセンターの運営に住民も参画しよう
- ・誰もが気軽に集ったり交流しながらお互いのネットワークづくりや情報発信ができるようなボランティアセンターにしよう
- ・地域の多様な生活課題への対応に、より多くの住民が参加することを目指し、その活動を支援するボランティアセンターにしよう
- ・災害時に住みなれた地域での生活を支援できるよう、各機関と連携をはかりながら、住民もその運営に参画できるようなボランティアセンターにしよう

福祉とは地域に暮らす私たちの課題だ

- ① 普段の暮らしの幸せは、同じ地域に住む私たちみんなの課題だ
- ② テーマ別の活動のみならず、日常生活上の課題に対応し、地域に貢献できるようなボランティア活動をしたい
- ③ まちづくりに関する活動を支援してくれるボランティアセンターが欲しい
- ④ とりたててボランティア活動といわなくても、身近な地域で行っている日常的な支え合い活動をもっと推進したい
- ⑤ 地域に暮らす人のいろいろな夢の実現に向けて、その活動を支援してくれるボランティアセンターが欲しい

協働・連携
ネットワーク

我々福祉の関係者
がまずつながりあ
おう

福祉とは我々の課題だ

- ① 自分が支援できる時になんらかのお手伝いをしたい
- ② 福祉課題を持つ人を支援するのはあたり前だ
- ③ もっと福祉課題を持つ人への支援者を地域に増やしたい
- ④ 地域や学校で福祉のことを理解する機会を持つことは大切だ
- ⑤ 高齢者であっても障がい者であっても、地域で暮らし続けたいので、ちょっとした支援をしてくれるボランティアが欲しい
- ⑥ 障がい者の社会参加の機会や建物のバリアフリー整備などの環境づくりへの支援が増えつつある

住民意識



社会福祉協議会ボランティアセンター に参加してきた

- ・福祉課題をもつ人とボランティアのマッチングを行ってきた
- ・福祉課題をもつ人を支援する福祉ボランティアの養成講座を行ってきた
- ・同じ目的を持つ人同士が、グループ化をしてボランティア活動を行ってきた
- ・いろいろな活動を行っているボランティアグループが加入し「ボランティア連絡協議会」を結成している
- ・ボランティア連絡協議会が主となり「ボランティアと福祉のつどい」を実行委員会形式で開催してきた

住民意識

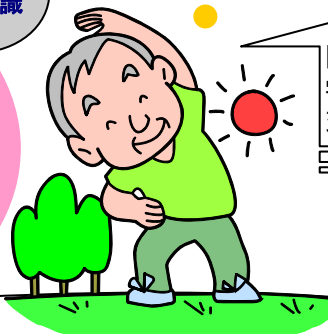
福祉とは支援を受ける私(たち)の課題だ

- ① 私は私の人生をどのように生きるか考えてみたい
- ② 私は私自身の「老い」「障がい」「家族」とどのように向き合うのか考えてみたい
- ③ 私は家族の絆を考えてみたい
- ④ 私は福祉の世話にはなりたくない
- ⑤ 私は元気だから福祉とは無関係

問題の共有
学習会や
交流

個人の余暇・楽しみ
・生きがいが大切

- ・保健師等の健康指導や相談
- ・当事者への個別の支援や相談
- ・当事者団体の活動への参加
- ・各種生涯学習講座への参加
- ・各種つどいやスポーツへの参加

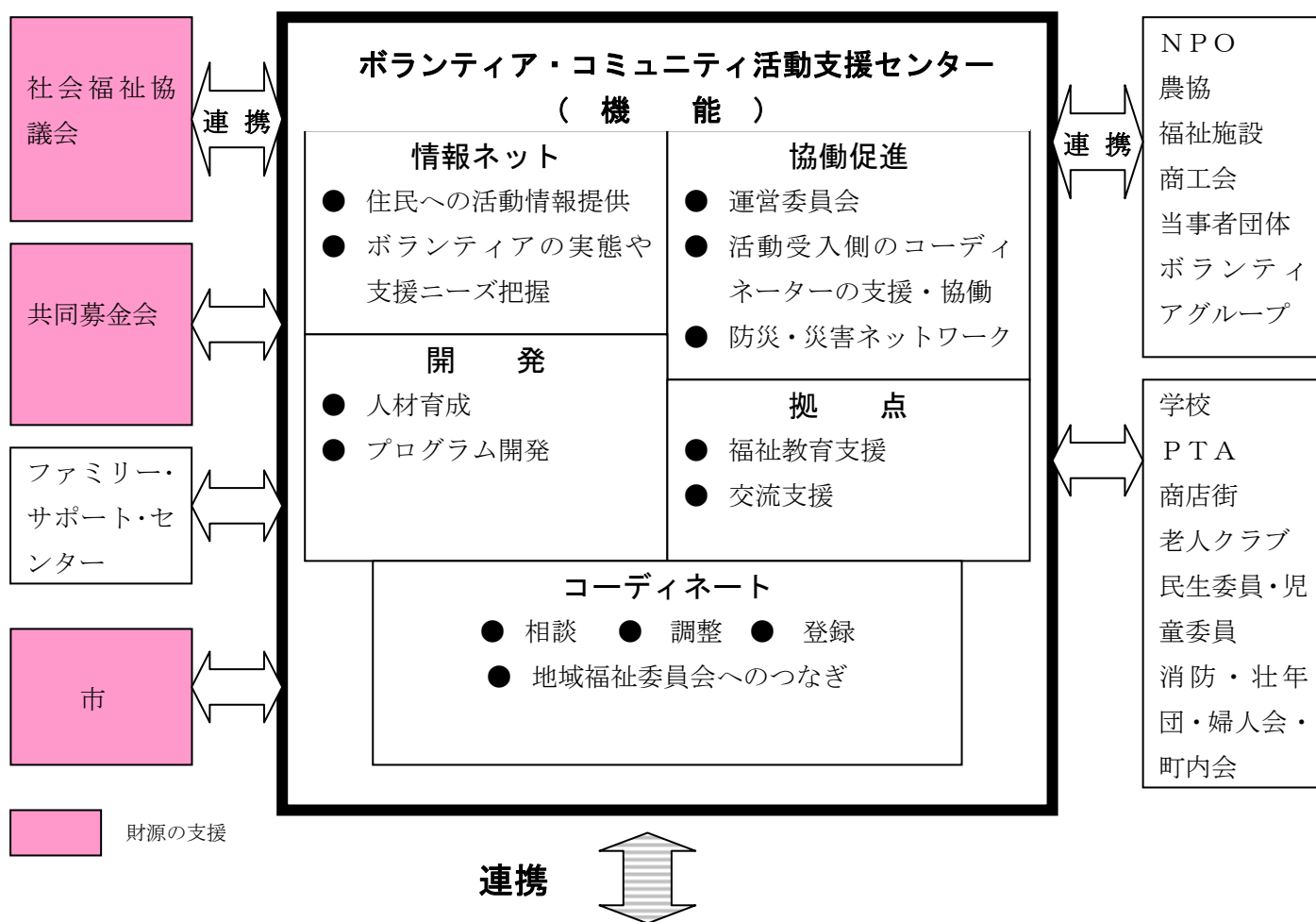


このまちが好き！この住み慣れたまちで いつまでも安心して
自分らしく いきいきと 暮らし続けたい！

ボランティア・コミュニティ活動支援センターのイメージ

● ● ● 身近で、楽しく、力強く、発展的に ● ● ●

ボランティア・コミュニティ活動支援センターは、ボランティア活動についての狭いイメージを脱却し、地域に暮らす住民が自分自身のために、自身の可能性を追求したり、地域住民同士で楽しく交流しながら、地域の活力を創り出すことを支援します。



地域福祉活動の拠点〈地域福祉委員会〉

●いきいきサロン活動 ●見守り・交流・防災活動 ●福祉教育・学習活動 ●共同募金運動

第 5 章

住民意識と活動を高めるために

◆ 能美市地域福祉活動計画を推進する体制

- ★ アクションプラン推進協議会において、4つのアクションプラン委員会の各々、及び全体の進捗を確認し、本計画を推進していきます。

能 美 市 地 域 福 祉 活 動 計 画			
アクションプラン推進協議会　＜各委員会の進捗を確認する＞			
会長　1名、副会長　1名、理事（会長、副会長を含め 8名） 各委員会の委員長、副委員長で組織する			
アクションプラン委員会　（実現の協議・実行）			
地域福祉 人づくり委員会	地域福祉 ネットワークづくり委員会	地域福祉支え合いの しくみづくり委員会	私たちのボランティア センターづくり委員会

4つのアクションプラン委員会の事務局は能美市社会福祉協議会が担当します。

- ・ 各アクションプラン委員会では、毎年度、取組みの進捗状況（内容の確認と点検後の改善案）等を、アクションプラン推進協議会へ報告します。
- ・ アクションプラン推進協議会では、各アクションプラン委員会から、取組みの進捗状況等に対しての報告を受け、計画全体の進捗状況を確認し、毎年度、報告会を開催します。

◆ 能美市地域福祉活動計画を評価する体制

- ★ 本計画の進捗状況等を評価する組織として、

能美市地域福祉活動計画評価委員会を設置します。

- ・ アクションプラン推進協議会理事8名と、策定委員若干名により組織し、毎年度、進捗状況等を評価します。
- ・ 評価を受けたアクションプラン推進協議会・各アクションプラン委員会では、修正案を検討し、再度その修正案を評価委員会へ報告すると同時に、能美市社会福祉協議会ホームページにおいて広く情報公開していきます。

＊ 地域福祉をすすめる住民の意識の向上と活動の継続には、評価することが必要です。住民自らが見直し、点検し、改善を工夫することで、より主体性の意識や活動の質も高まります。そして、評価内容と改善案を公表することで、情報の共有化を図り、地域全体に地域福祉の理解も広まっていくことになります。

◆ 地域福祉推進の支援体制

住民意見から、今後は、より多くの住民や多様な団体が、「地域福祉活動に参加しやすい環境を整備することが重要である」ことが出されました。そこで、アクションプラン委員会の取組みとは別に、下記の既存の組織内において、改善や強化に取り組むことにしました。

- ＊ 住民活動の「運営」支援組織として、能美市社会福祉協議会の強化を、「能美市社会福祉協議会 理事会・評議員会」において検討します。
- ＊ 住民活動の「資金」助成組織として、石川県共同募金会能美市支会の改善を、「石川県共同募金会能美市支会 理事会・評議員会」において検討します。

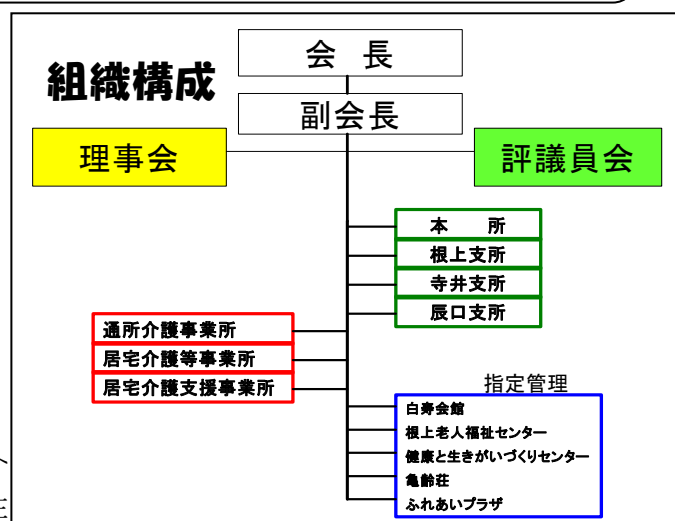
地域福祉の活動を推進する社会福祉協議会とは？

社会福祉協議会は、社会福祉法第109条に規定されている、地域福祉を推進することを目的とする民間団体です。全国・都道府県・市区町村のそれぞれに組織されており、その地区内の社会福祉を目的とする事業の経営者や社会福祉に関する活動を行う者が参加して、公正中立な立場から地域福祉をすすめる事業を行なっています。

能美市社会福祉協議会とは・・・

能美市社会福祉協議会は、本所と根上・寺井・辰口の3つの支所をもち、小地域単位の見守りネットワークの構築やボランティアセンターの運営、身近な福祉相談窓口の設置、及び様々な在宅福祉のサービスを提供しています。その他サービス提供事業所を運営し、地区内の介護サービスの充実にも努めています。

また、地域住民の福祉意識の向上と福祉活動への参加を目的に「会員会費制度」に取り組み、住民に支えられたまちぐるみの福祉活動を推進していますが、今後は、地域福祉活動推進の中核としての機能を十分に発揮できるよう、更にその基盤の強化を図っていくことが求められています。



〈平成19年度 会員会費の使途計画〉(千円)

地域福祉事業	配分金額
ふれあいいいきサロン助成	1,500
社会福祉協議会広報紙発行	500
ボランティアと福祉のつどい	540
福祉協力校の活動助成	500
ふれあい福祉運動会	300
社会福祉大会	237
会員会費募集	160
閉じこもり予防デイサービス	63
合 計	3,800

社協会員会費制度

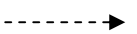
住民に呼びかけ、社協への理解を広げ社協事業や活動への参加を促進する住民組織化のひとつとして会員会費制度を導入しています。

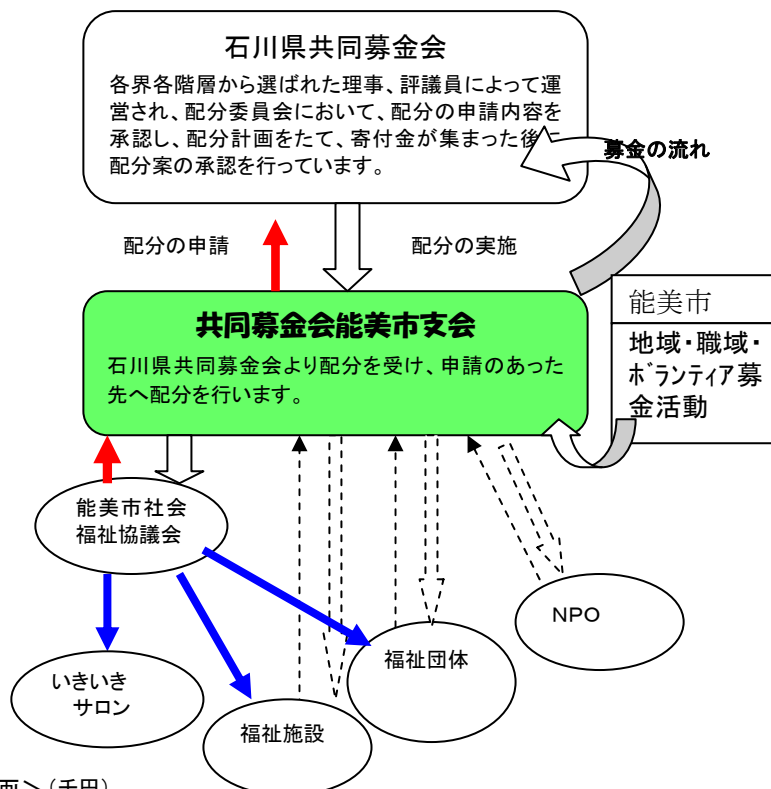
会費 個人会費 お一人年額300円以上
特別会費 年額3,000円以上

地域福祉の活動に使われている共同募金とは？

共同募金は、社会福祉法第112条に規定され、厚生労働大臣の告示により、全国一斉に行なわれる「赤い羽根共同募金」や「歳末たすけあい募金」などのことを指します。その運動の実施主体は、都道府県単位に組織された共同募金会で、市区町村に支会が設置されています。

能美市では・・・

現在は、能美市社会福祉協議会が、直接、一次配分を受け、のように社協事業を通じて、2次配分を行っていますが、今後は のように、様々な団体が、共同募金会能美市支会へ直接、申請をしたり、配分を受けたりすることができ、より主体的、先駆的な地域福祉活動がしやすいような環境を整備することが求められています。



＜平成19年度 共同募金配分事業の使途計画＞(千円)

地域福祉事業	配分金額
ふれあい配食サービス(月数回)	1,000
ふれあいいきいきサロンへの助成 (各町の自主活動サロン)	600
市内福祉施設助成への助成 (地域交流活動)	450
障害者の日記念事業 (各種障害者団体)	150
一人暮らし高齢者昼食会	280
一人暮らし高齢者バスハイキング	81
歳末見舞金	2,500
合計金額	5,061

共同募金とは

「共同募金」は、各都道府県ごとに行われます。災害時などを除き、集まった募金は、その地域内で使い道が決められ、募金をした方々の地域で生きる循環型の募金です。

募金しても、どのように使われているか知らない！よく見ていない

社協だけで使っていないお金なのかな？

町会が町会費のように集めに来るが、そんなものなのか？

「共同募金」という言葉はよく聞くから、なんとなく「安心感」は持たれるけれど、地域福祉の活動に使われていることはあまり知られていなくて残念！

資 料 集

- ・ 能美市地域福祉活動計画策定委員会委員名簿
- ・ 〃 幹事会委員名簿
- ・ 〃 ワーキング部会委員名簿
- ・ 能美市社会福祉協議会理事・監事名簿
- ・ 〃 評議員名簿
- ・ 能美市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱
- ・ 〃 アクションプラン推進協議会設置要綱
- ・ 〃 評価委員会設置要綱
- ・ 〃 関連体系図
- ・ 能美市における福祉の現状 ((1)～(9) 能美市地域福祉計画のデーターを掲載)
 - (1) 人口・世帯数の推移
 - (2) 少子高齢化の進行
 - (3) 高齢者を含む世帯の推移
 - (4) 要介護認定者数の推移
 - (5) 老人クラブ会員数の推移
 - (6) シルバー人材センター会員数の推移
 - (7) 児童数の推移
 - (8) 障害者手帳所持者の推移
 - (9) 社会福祉協議会ボランティアセンター登録ボランティアの推移
- ・ 福祉関係施設一覧
- ・ 簡単用語集 (本計画に掲載されている用語の説明)

(これは本当の裏表紙)

